

北海道平和婦人会創立60周年記念講演会

10月25日(土) 2:30~3:30 かでの2・7 4F大会議室

「らいてうの時代から 私たちの時代へ

～いま、女性がつくる平和世界～」

講師 米田 佐代子さん

(女性史研究者、平塚らいてうの会会長) *参加費 500円



北海道平和婦人会
創立六十周年記念行事を
成功させましよう

秋の気配が訪れて参りました。安倍政権の暴走にストップかける闘いと同時進行で、今春から加盟団体、賛助会員、婦人通信読者皆さん、そして友誼団体・個人の方々のご協力をいただき、六十周年記念行事の準備を進めてきました。

① 「六十周年記念『日本の青空』上映会」は、前売り券予約やプレイガイド購入、当日券の方が三割にのぼり、「時宜にかなった企画」と喜ばれ、チケット普及も五百枚を超えて成功させることができました。

② 「六十周年記念行事協力名刺広告・募金」には温かいご協力を得て、

③ 「六十年記念誌」掲載の名刺広告原稿を印刷所に送り、ご祝辞原稿も届き、十月二十五日発行の記念誌の編集も山場を迎えています。

④ 「米田佐代子さん迎えての六十周年記念講演会」は、ニュースの二号、三号連続でお知らせし、七月北海道母親大会でもチラシで宣伝、平和婦

発行
北海道平和婦人会
札幌市中央区
北3条西7丁目
道庁別館 2F
電話 011-241-0958
(道庁 231-4111)
第 4 号
2014年9月1日

60周年記念レセプション

10月25日(土) PM5時開演

ポールスター札幌

(札幌市中央区北4西6道庁北門前)

会費 5000円(記念誌贈呈)

☆申し込みご案内は別紙で致します。

☆米田佐代子さんも出席されます。

人会の事務所にも問い合わせの電話が来ております。なんととっても加盟団体、賛助会員、婦人通信読者の方々のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

さらに、今日の平和が脅かされ、きな臭さが漂う状況に危惧を抱いている方々、平塚らいてうに関心を持つ幅広い方々にも、様々なツールでお知らせしたいと思えます。

⑤ 「六十周年記念レセプション」ご案内を送付いたします。



第61回北海道平和婦人会総会のご案内

日時 12月6日(土) PM1時30分~4時30分

会場 かでの2・7 940研修室

記念講演

安倍政権の歴史認識と日本軍「慰安婦」問題

高崎 裕子さん (弁護士・たかさき法律事務所)



名刺広告、協力募金をお寄せ下さいました皆様にご心よりお礼申し上げます。

記念誌には名刺広告掲載と同時に募金をいただいた皆様のお名前もご承諾の上、掲載致します。募金につきましては、引き続き九月末必着分まで掲載が間に合いますのでよろしくご協力お願い申し上げます。

第57回北海道母親大会札幌開催

七月六日、第五七回北海道母親大会が札幌市教育文化会館で開催され、のべ一七六〇名が集いました。午前中は、七分科会と特別分科会、見学分科会が開かれ、学び語り熱く交流しました。特別分科会は、「ドキュメンタリー映画『放射能を浴びたX年後』の鑑賞。六〇年前南太平洋で行われたアメリカの水爆実験による地球規模の汚染と被害の深刻な実態が次々と明らかにされ、福島第一原発事故と重ね会場に衝撃が走りました。

午後全体の会はステージ一杯に並んだ『母親合唱団』の熱唱でオープニング。

釜島満恵実行委員長の開会挨拶、来賓挨拶。活動交流は医療・介護の問題（勤医労女性部）大間原発建設差し止め訴訟（道南母親連絡会）NP T再検討会議・核兵器廃絶（新婦人道本部）の三団体から。会場から『安倍首相に怒りの一言』を参加者が互いに振ってエールの交歓。募金の訴えでは、道母親大会の生みの親の一人の三浦章子平和婦人会顧問が熱く訴え大きな拍手が。

記念講演は『家事労働』ハラスメントってなんのことうアペノミクスで私たちは幸せになれるのか。講師のジャーナリストで和光大学教授の竹信三恵子さんは人間の生を支える家事労働が蔑視される状況『家事ハラ』の名付け親。『家事ハラ』は保育・介護労働などを家事労働の延長線上で低賃金化し、女性労働全般を貶め、労働環境整備の放棄、女性の貧困、貧困の連鎖を生み出し、男性労働者の低賃金を下支えする。アペノミクスはこれらを増幅するとデータを駆使して鋭く告発、問題意識を喚起しました。

「大間原発」建設反対現地集會に参加

七月二十日、青森県・下北半島先端の大間町で開かれた「第七回大間原発建設反対現地集會」（現地実行委員会主催）に原発連代表の米谷さん以下六名、女性団体は平和婦人会紅一点の参加でした。

石川 一美記

一日目は函館で街宣と交流。特急北斗で十九日正午に札幌発、函館に到着後、午後四時半からJR駅前で、新婦人函館支部事務局長の才門さん、函館平和婦人会結成に参加し新婦人函館支部創立会員の今井さん、日本共産党の紺谷・本間両函館市議さんと一緒に、駅前を行き交う人々に「大間原発建設反対」の横断幕を掲げて宣伝行動。交流では、今年四月に工藤函館市長が提訴した「大間原発建設差し止め訴訟」を中心にお話を聞きました。「大間原発は、プルトニウムとウランを混合するMOX燃料を100%使う世界初の商業炉で二〇〇八年に着工。計画の段階から最も危険な原発として建設反対運動や市民レベルの訴訟にとりくんできたが、福島原発事故以前は、自治体への避難計画策定義務づけは10*圏内、事故以後30*圏内に拡大された。大間から函館までは最短で23*。青森市



（人口9万人）は50*圏内。50*圏内では函館市内及び道南の六市町まで人口37万人がこのエリアに生活している。大間原発から30*圏内の函館市は防災対策を重点的に行う「緊急防護措置区域」。着工時は古い基準で自治体同意権はなかった。事故が起きれば市民の命も暮らしも重大な危険にさらされ、道南全域にも及ぶ。今回市長が全国初の自治体による「建設差し止め訴訟」を決断した理由、その背中を押した住民運動・国民世論の高まりが函館市への二千四百万円を超える募金に示されている」と函館の皆さんから口々に語られ、翌日の大間行きをひかえ、私たちの視点と構えを学びました。

二日目は、フェリーで大間港・徒歩で集会場へ翌朝、七重浜埠頭で函館・道南の参加者と合流、九十名余が大間ゆきフェリーで一時間四十分の船旅。港から坂を上った集会場は原発反対の地主（二坪地主の会の共有地。「泊原発廃炉の会」の小野有五先生は「大地震のたびに地盤が持ち上がってきた土地に原発を作ってはいけません」と。前段は、多彩なジャンルの演奏が次々。六百人参加の本集會は、現地・青森、全国・道・函館、各分野と十四人の人々がそれぞれの流儀で熱く発信。最後に「国や事業者を相手に、決意と信念を貫いた熊谷あさ子さんのように、大間原発建設を断念させるまで、私たちは声を上げ続け、行動を継続します。ひとりから、ひとりでも。声を上げよう、上げ続けよう！」と集會アピール。デモの出発地点、大間港から500個の風船を函館に向けて飛ばし、町内を練り歩いてアピール。窓から手を振っての応援も。デモの後、北海道の九十人は「あさこはうす」へ。電源開発の見張り車がいる入り口からフェ

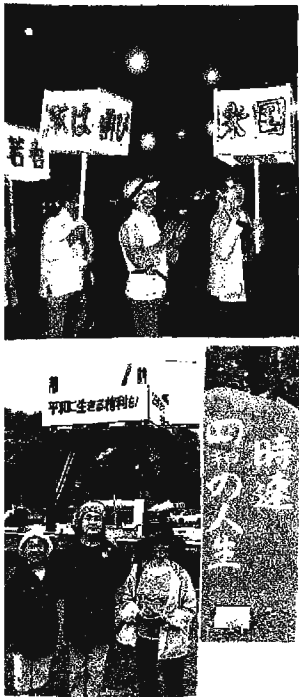
ンスで仕切られた1*の砂利道を歩いて訪問。熊谷あさ子さんの娘さんで、お母さんの遺志を継ぐ「あさこはうす」の守り手、小笠原厚子さんに感激の対面。厚子さんには、3.11から丸一年に「女性連絡会」が発行した女性アピールジャンボチラシ「なくそう原発！安心してくらし、子育てできる日本・北海道を！」のよびかけ人を依頼・承諾を得てから一度はお会いしたいと。お話しするとすぐに通じ合いました。あさ子さんのご位牌に手を合わせ、厚子さんと鳥・犬・猫など小動物たちとの「はうす」内外での暮らしぶりを案内されました。「あさこはうす」から建設中の大間原発の「炉心」までわずか300m。矢白別自衛隊基地のど真ん中に住み続けた川瀬汎二さんの笑顔と厚子さんの笑顔がダブリ、大間原発建設阻止の闘いで「あさこはうす」の立ち位置を痛感しました。

第五十回矢白別平和盆踊りに参加して

《一日目》

治安維持法国同盟女性部 隼野 弘子記

川瀬汎二さんたちの自衛隊矢白別演習所建設反対の闘いは、自分なりに知っていました。今回は五十回の節目、是非参加したいと平和婦人会代表として、石川一美さんと共に札幌発矢



白別ゆき貸切りバスに乗りこみ向かいました。夕方四時過ぎに現地に着きバスから降りて

見渡すと、各地から参加の人達のテントが沢山設営されており、全道はじめ南は沖縄・九州・四国・中国・関西・関東・東北と全国から一千名以上の参加と聞き、驚きと共に日本一広い演習場の矢白別の闘いが平和運動の原点になっている人達が多いことに感動しました。

広場の中ほどに平和盆踊りの櫓が組まれ、奥には特設ステージが設けられた会場の周囲を取り囲むように各民主団体の売店のテントが並んでいて、飲み物・焼き鳥などのおいしい匂いが漂っていました。

ジンギスカンとおにぎりで夕食を済ませた後、オーブニングのセレモニーを石川さんと客席の最前列を陣取り見入りました。

東京から参加した畑田重夫さん（国際政治学者）は、学徒動員で二千人召集されたなか自分は病氣入院中で出兵を免れ、千九百九十九人が戦死。自分一人生き残ったことが平和運動にかかわるきっかけになり、九十一歳になった今、死んだ仲間分まで生きて、全国を回って平和の尊さを語りたくて決意を熱く述べられました。

ステージ交流では「花いかだ」の風刺たつぷりの面踊りあり、歌声あり、トランペット演奏ありで楽しく素敵なひと時を過ごすことが出来ました。夜空を飾った花火もとてもきれいでした。空が薄墨色になる頃、かがり火が点火され、北海盆歌を和太鼓に合わせて歌い始めると盆踊りの始まりです。仮装には安倍首相のはりぼても登場、踊りの輪が幾重にも広がり、みんなそれぞれ思いを込めて踊りました。たまたかいの中から文化が生まれることを実感しました。

《二日目》 平和婦人会 石川一美記

川瀬汎二さんの遺志継ぐ渡辺佐知子さんと再会！
米海兵隊移転訓練反対全道集會に参加

朝六時矢白別の里めぐり、川瀬宅から、川瀬汎二・普美子の碑、碑の「時速四キロの人生」を胸に刻みながら、演習場のど真ん中の五十年間「黙認放牧地」を横切る一・五*の通称「団結道路」の要所、要所でガイドを受け、終点が二五年前から住人の浦舟三郎夫妻宅。往復一時間の里めぐりガイドのハンドマイク持ちが、十年前から川瀬宅に住み、いま川瀬さんの遺志を継ぐ渡辺佐知子さん。佐知子さんは十五年前、オランダ・ハーグでの世界平和市民會議に一緒に参加、報告活動をともした若い仲間。つかの間のうれしい再会で佐知子さん、隼野さんとスリーショット！地元新婦人心づくしのバイキングをお腹一杯食べた後は「朝の集い」。二人の矢白別の住人、浦さんは「川瀬さんがD型ハウスの屋根一杯に書いた『自衛隊は憲法違反』が私を励ます。初心忘れずにがんばります」と。佐知子さんは「二日の仕事を終えて車を降り家に向かうとき、星空を見上げ矢白別の『匂い』を感じます。自衛隊員にも夕べの花火が見えたと思います」と語りました。フィナーレの松平晃さんのトランペット演奏後、バスで別海町プラト広場へ移動、米海兵隊移転訓練反対全道集會に参加。沖縄からの移転訓練候補地になり反対闘争開始から十七年、何度ここに来たことか。いま安倍政権の集団的自衛権容認「戦争する国づくり」で激化する移転訓練。沖縄と連帯、若者を戦場に送る国は許さない思いあらたに札幌ゆきバスへ。

2014 さっぽろ平和行動

今年7月、安倍自民党・公明党政権は「集団的自衛権行使」を閣議決定し、日本を「海外で戦争する国」づくりをすすめています。これは日本国憲法第9条とは相いれません。戦争する国にさせないため、力を合わせて憲法9条を守りましょう。

★ヒロシマ・ナガサキデー（8月6日、9日）の宣伝には炎天下のなか、両日で延べ37人を超える参加者で宣伝、署名活動をおこないました。反応もよく短時間で署名80筆集まりました。

★8月6日～9日 地下街オーロラコーナー「戦争と平和を考える」パネル展



8・15反戦街頭宣伝行動

★石川一美実行委員長、被爆体験者の金子廣子さん、憲法会議の弁護士斉藤耕さん、非核の政府の会小野内勝義さんがマイクを握り、戦争・被爆体験を語り「集団的自衛権」行使の撤回と安倍政権がすすめる戦争への道は許さないと訴えました。「赤紙」の受け取りもよく900枚を配布。60名の参加でした。NHK・STV、UHBはじめ朝日・毎日・道新などが取り組みを報道しました。



8・15 走れ平和号（市電）

★走れ平和号（電車）には親子連れなど満員の85人が参加しました。車内では原爆写真や平和を願う折鶴や絵手紙が飾られました。5歳の時に広島で被曝した金子廣子さん、7歳で長崎で被曝した広田凱則さんが被爆の体験を語り「核兵器をなくして平和な日本・世界を」と訴えました。道新・赤旗・毎日が取材し記事になりました。



★今後の日程★

はたらく女性の全道集会

11月15日(土)13時開場

エルフラザ3階ホール

講師:浜 矩子さん

参加費 1000円